

薬草 × 和歌山 = 可能性は無限大?!

和歌山は実は薬草栽培に適している土地であることをご存知ですか？
紀州藩ゆかりの徳川吉宗は江戸で「小石川養生所」を立ち上げたことは広く知られていますが、紀州藩でも様々な薬草の栽培をしたといわれています。
和歌山の農山漁村のファンづくりに取り組む「いなか伝承社」(任意団体・田中寛人代表)の活動から薬草の可能性を探ります。



(左) トウキの畑 (上) 修治の工程でトウキをはぜ掛けしている様子。



質は日本一!
高野町の「トウキ」
「トウキ(当帰)」とは婦人病などに効能がある漢方薬の材料として知られる薬草。なかでも標高が高い高野町や奈良県五條市付近で栽培されるトウキの質は日本一ともいわれています。
トウキは、収穫後に専用の道具を用いて漢方薬の材料として使えるよう加工する「修治(しゅうち)」という工程を経て、製薬会社に出荷されています。
またトウキの葉は香料として使われることもあり、いなか伝承社でもお茶として試飲するイベントなどを開いたことがあります。

青洲にもゆかりがあるもの...
紀州藩出身の医学者・華岡青洲が処方した漢方薬の軟膏剤である「紫雲膏(しうんこう)」にもトウキが使われています。軽度のやけどなどに効能があるとされ、様々な製薬会社が商品化しています。
和歌山にゆかりがあり、日本一の品質といわれるトウキ。幅広い活用が期待できそうですが、現在高野町でトウキを扱う農家はわずか2軒。上手に発芽させるための技術が必要で、修治の作業も専用の道具が必要で難しく、他の農林水産業同様、後継者不足に悩まされています。このままでは数年で和歌山県内でトウキを栽培できる人がいなくなる可能性が高くなっています。

知名度と制度の壁
今や全国屈指のトウキ生産地となっている奈良県では県をあげて、トウキを活用した様々な商品や料理の開発やPRに積極的に取り組んでいます。和歌山県内でも各地で薬草や薬膳料理などの普及の取り組みが行われてきましたが、なかなか大きな動きまでには広がっていないようです。

【おことわり】
4コマ漫画「海野くんと山乃ちゃん」はお休みします。ご了承ください。

【次号のわかつく】
社会情勢がおおきく変動するなかで、なんらかのきっかけで職を失ったり、場合によっては住まいを失ったり、という事態に陥ってしまう方もいらっしゃると思います。そうした方を支援する取り組みをご紹介します予定です。次号は9月11日付けの予定です。

地域おこしの可能性
和歌山港の近くに薬種畑という地名がありますが、これも吉宗が関わった薬草園の名残といわれています。華岡青洲を輩出するなど、江戸時代の医学に紀州は大きな影響を残しており、こうした先人の知見を後世に伝える意義は大きいと考えられます。

状態によって「医薬品」とみなされたり、単なる「食品」としてみなされるケースがあるなど、取り扱い方がややこしく、結果としてPRの機会を失ってしまっています。

また現代では高齢化の進展で健康志向が高まっており、薬草や薬膳料理を活かした健康増進の機運の高まりにつなげる可能性も十分あります。地域に自生している薬草などが健康に役立つのであれば、地域資源の有効活用につながる期待も和歌山県内では大学の薬学部の新設準備も進んでいます。薬草栽培の後継者問題と、薬機法等の壁がクリアできれば、和歌山での薬草の可能性はもっと広がります。(志場久起)



(上・左) 和歌山県内で採取された薬草を使ってお茶を試飲するイベントの様子

第2回和歌山市 NPO・ボランティアパワーアップセミナー

参加者募集

NPO・ボランティアのための広報・初級編

～そうだったのか！非営利団体・ボランティアの広報最初の一步～

NPO・ボランティア団体は、活動への参加の呼びかけ、ボランティアの募集、支援者の募集など、様々な場面で「広報」する機会があります。どんな広報をすれば、市民のみなさんに伝わりやすいのか、NPO での広報実務経験の実績が豊富な石井さんから学びます。

※ この講座は今年 3 月 7 日に開催を予定していたものの新型コロナウイルス感染症拡大の影響で延期となっていたものです。

日時 **2020年10月3日(土) 13:30～16:00**
場所 和歌山市地域フロンティアセンター会議室C (フォルテワジマ6階)
講師 石井大輔さん (「ファンドレイジングのレシピ」代表/ファンドレイジング・コーディネーター)
参加費 無料ですが各団体の広報物をご持参ください
対象 和歌山市周辺の NPO・ボランティア団体で活動されている方
定員 30名

主催 和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会、和歌山県 NPO サポートセンター
本講座は、和歌山市地域フロンティアセンター利用登録団体が参加している「和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会」と、和歌山県 NPO サポートセンターが連携して開催します。

【石井大輔さんプロフィール】
1978年神奈川県足柄上郡生まれ。大阪府高槻市在住。通信機器メーカー(営業・マーケティング)や制作会社(営業・編集)を経て、2007年から国際協力NGOや中間支援NPOなど非営利組織に通算9年在籍。広報・渉外、ハンガリー駐在員などを経験。2016年にフリーランスとなり、非営利団体やボランティアグループの資金調達や広報の「困った」を解決するウェブメディア運営や伴走支援に取り組む。ウェブサイト「ファンドレイジングのレシピ」https://recipe4fundraising.com/

【お申し込み方法】
電話・FAX・メール・オンライン申込みのいずれかで、和歌山県 NPO サポートセンターまでお申し込みください。
電話 073-435-5424 (受付時間: 火曜～土曜 9:00～20:50、日曜 9:00～17:30、月曜・祝祭日休み)
FAX 073-435-5425 E-mail info@wakayama-npo.jp
オンライン申込み 右の2次元コードをスマートフォンで読み取って申し込みページにアクセスください。

【お知らせ】
新型コロナウイルス感染症の拡大が継続し、オンライン会議・オンライン研修の機会が増加しています。助成金・補助金の制度説明会、事業の説明会などがオンラインで開催されるなどのケースもみられ、NPO・ボランティア団体としてもオンライン会議・オンライン研修ができる環境整備が求められるようになってきました。
和歌山県 NPO サポートセンターでは、使用例が多いオンライン会議ツール「ZOOM」を一度使ってみようという機会をご用意します。詳細が決まりましたら、和歌山県 NPO ホームページ「わかやま NPO 広場」(https://www.wakayama-npo.jp)でお知らせします。